TADOKU JUNIOR 自然のふしぎ神話 ★★☆☆☆ みじかい 237語

# Iris' Bridge

## イリスのはし

Flora J. Cooke（1895年の本） 原文そのまま 朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ 空で生まれたイリスは、おじいさんの海が大すき。太陽は、イリスを天と地をつなぐ使いにして、美しい色のはしを作ってくれました。

In the sky where the amber tints are seen on the clouds, Iris was born.

She loved her home and all the beautiful things around her.

Perhaps she sailed in the moon's silver boat and knew why the stars kept twinkling.

Perhaps she feasted on sunshine and dew, and slept on the soft white clouds.

More than anything in her sky-home, Iris loved her grandfather, the stern old ocean.

When he was merry, and drove his white horses over the water, she was happy.

When he was troubled, and the sky grew dark and sad, she quietly slipped her hand into his.

Instantly he smiled, and became gentle again.

He longed always to keep her with him, but the Sun said:

"No, Iris belongs to both ocean and sky.

"Let her be the messenger between heaven and earth."

They placed golden wings upon her shoulders and made her a bridge of beautiful colors.

One end of the bridge they rested in the sky, but the other Iris could fasten to the earth with a pot of gold.

This was the way Iris' path was made:

The earth gave the tints of her fairest flowers, the sea brought great ribbons of silvery mist, the wind was the shuttle, the sky was the loom and the Sun himself was the weaver.

It is no wonder that the most beautiful thing in all the world is Iris' bridge, the rainbow.



## 和訳 イリスのはし（Iris’ Bridge）

雲がこはく色にそまる空で、イリスは生まれました。

イリスは自分の家と、まわりの美しいものすべてが大すきでした。

もしかしたらイリスは、月の銀のボートに乗って、星がなぜきらきらまたたいているのかを知っていたかもしれません。

もしかしたら、日の光とつゆをごちそうに食べて、やわらかい白い雲の上でねむっていたかもしれません。

空の家のなによりも、イリスはおじいさんの、きびしい年よりの海が大すきでした。

おじいさんがきげんよく、海の上に白い馬たちを走らせているとき、イリスは幸せでした。

おじいさんがなやんで、空が暗く悲しくなると、イリスはそっとおじいさんの手に自分の手をすべりこませました。

するとたちまち、おじいさんはほほえんで、またやさしくなりました。

おじいさんは、いつまでもイリスをそばにおいておきたいと思いましたが、太陽が言いました。

「いいや、イリスは海のものでもあり、空のものでもあるのだ。」

「イリスを、天と地のあいだの使いにしよう。」

みんなはイリスのかたに金のつばさをつけ、美しい色のはしを作ってあげました。

はしのかたほうのはしは空においてありましたが、もうかたほうは、イリスが金のつぼで地面にとめることができました。

イリスの道は、こうして作られました。

地上は一番きれいな花の色をあたえ、海は銀色のきりの大きなリボンを持ってきました。風は糸を運ぶはたおりの道具になり、空ははたおりきになり、太陽そのものがおり手になりました。

世界じゅうで一番美しいものがイリスのはし、つまりにじだというのも、ふしぎではありません。

## たんご と クイズ イリスのはし

| | | |
|---|---|---|
| clouds 雲 | moon 月 | stars 星 |
| ocean 海 | Sun 太陽 | wings つばさ |
| pot of gold 金のつぼ | rainbow にじ | |

**Q1** イリスが空の家で一番大すきだったのはだれ？

① 太陽　② おじいさんの海　③ 月

**Q2** 太陽は、イリスを何にしようと言った？

① 天と地のあいだの使い　② 海の女王　③ 星の番人

**Q3** おじいさんの海がまたやさしくなったのはなぜ？

① 太陽が出たから　② イリスがそっと手をにぎったから　③ 雨がやんだから

**こたえ**

Q1　②　イリスは空の家のなによりも、おじいさんの、きびしい年よりの海が大すきでした。海がきげんのよいときは、イリスも幸せでした。

Q2　①　太陽は、イリスは海のものでもあり空のものでもあるので、天と地のあいだの使いにしよう、と言いました。

Q3　②　おじいさんがなやんでいるとき、イリスがそっと手をすべりこませると、おじいさんはたちまちほほえんでやさしくなりました。

**原田英語の多読ベストジュニア**

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

**出典**　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1895 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。